

「戦争と医の倫理」の検証を進める会 設立大会の概要報告

2009年9月27日（日）、「戦争と医の倫理」の検証を進める会の設立大会を東京大学医学部の会議室で開催した。これには、医師・医学者、看護師などの医療関係者、医学生、生命倫理や歴史学研究者、弁護士など約100人が出席した。取材などでマスコミ関係3社、ジャーナリストなども参加した。

なお、会場内では、第27回日本医学会総会出展「戦争と医学」展実行委員会の活動で作成した「パネル」などを多数展示した。

<第一部：設立大会>

設立大会では、冒頭、議長に小俣和一郎、肥田泰各常任世話人を選出した。来賓の全日本医学生自治会連合の村山恒峻委員長（信州大学5年生）は、医学生の立場から、戦争と医の倫理の検証から教訓を学ぶことの重要性に触れ、会の設立に期待し連携したいと挨拶した。

続いて、赤羽根巖常任世話人から賛同・激励のメッセージが9人の方から寄せられたこと。寄せられた中から時間の関係で、米国ハーバード大学・ダニエル・ウィクラー教授、中国731部隊罪証陳列館・金成民館長、作家の森村誠一氏、聖路加国際病院の日野原重明理事長のメッセージを読み上げで紹介し、参加者から大きな拍手につつまれた。

議事では、西山勝夫代表世話人から、設立に至る過程でさまざまな意見交換を重ねる中で、設立趣意書の案をまとめ、本日の設立大会を迎えるに至った経過が詳しく報告された。この経過報告を受けて、石川徹代表世話人から、設立趣意書、および賛同の呼びかけの案が提案された。

その後、質疑、討論が行なわれた。参加者から出された主な意見は、

- ① 731部隊などの検証とともに、そもそも戦争を引き起こした当時の政府の責任、当時の大学令など国のあり方も問うべきで、戦争を起こさせない視野から活動することが重要だ。
- ② 60数年たった今も被害者が生活に苦しみ、その補償も解決されていない。被害者のことに触れていない趣意書には少し違和感がある。被害者にも視点をあてた活動を進めてほしい。
- ③ 戦争中の資料は、国家によってまだ隠されていると思う。政権交代の今こそ、防衛省などに資料を公開させる運動が必要だ。
- ④ 当時の被害国・被害者を考えたとき、外国との関係、特に中国や韓国などの医療関係者や国民とも連帯した活動が必要であり、その旨を趣意書に位置づけることも検討してほしい。

これらの意見について西山代表世話人は、いずれも大事な意見として受け止め、医療の専門家として被害者の真相を明らかにすることや、資料の公開など日本政府への要請、外国関係者との連携も含めて活動をすすめたい。ただし、進める会の主眼は、日本の医学会、医療界として検証を進めることにあること。それとの関係で、趣意書にも反映させるかどうかは、今後の世話人会で検討させてほしいと説明した。討論の最後に、各提案を参加者の拍手で確認した。

住江憲勇事務局長から、世話人会の体制、および事務局を保団連に置くことについて提案がおこなわれ、拍手でこれを確認した。

世話人会を代表して塩安佳樹代表世話人が挨拶に立ち、論語の一節も紹介しながら、確認された趣意書をふまえ、検証の目的にそって学び、実践していく立場から、参加された皆さんの協力も得て進める旨の決意を表明した。会場から大きな拍手が寄せられた。

第一部の最後に、池部晋一郎さんの指揮による「混成合唱団『悪魔の飽食』をうたう東京合唱団」運営委員の平田啓さんから、合唱団の活動が紹介され、今後、機会があれば進める会とも連帯して活動したいとの挨拶が行われた。

＜第二部：記念講演＞

記念講演の司会は、蒔昭三常任世話人が担当し、冒頭、常石敬一神奈川大学教授の経歴紹介が行われた。

常石敬一神奈川大学教授は、「15年戦争と『医学犯罪』」と題して記念講演を行い、旧日本軍の資料や米国の保管資料など、取材等を通じて得た豊富な証拠資料をもとに、医学者・医師などが731部隊等で当時の人体実験などを罪の意識もないまま行っていた事実を示した。そして、これからの医の倫理向上のためにも、未公開資料を含む史実の検証を医療界がきちんと行い、そこから教訓を生かすことが重要である旨、強く訴えた。

続いて、吉中丈志常任世話人から、「09年5月京大医学部医学概論講義を行っての考察」と題しての活動報告が行われた。講義には116名参加したが、参加学生のうちアウシュビッツは約半数知っていたのに対し、731部隊は10名以下であったこと。学生の感想では、事実を知り自らの倫理観も考えたいなど、真摯な意見が多数寄せられたこと。これらに応えるためにも、「事実の検証」が急がれる課題であることが報告された。

【安田講堂前での記念撮影】

設立大会の最後に、西山勝夫代表世話人から、参加者一同による安田講堂前での記念撮影が提案された。

西山勝夫代表世話人は、医学界あげて侵略戦争に協力・荷担していく上で、当時の日本医学会総会が大きな役割を果たしたこと。特に第11回日本医学会総会では、石井四郎731部隊長が軍服姿で参加し、東大安田講堂前で記念撮影を行ったことは象徴的であると指摘した。そして、本日の進める会設立によって、これまでの歴史を検証し、それを乗り越え、人権を基礎とする医の倫理向上に向けた活動の出発点としたいと、同じ安田講堂前での記念撮影の意義を強調した。この訴えに応じて、多数の参加者が安田講堂前に集合し記念撮影を行った。

以上をもって、設立大会の全てのプログラムが終了した。

以上

(次ページに追加メモを掲載しています)

戦争と医の倫理の検証を進める会：設立大会の概要報告（追加メモ）

1. 参加者 94人（名簿などで確認できた人です）

（判断できる範囲での内訳）

- ・会の世話人と担当事務局 30人
- ・マスコミ関係 4人（毎日、東京、赤旗、ジャーナリスト）
- ・学生 6人（医学4人、薬学1人、理学1人）
- ・医学者 2人
- ・医師 5人
- ・看護関係 2人
- ・事務関係 11人
- ・関連の市民活動者（*参照） 11人
- ・その他（職種記載なし等） 23人

*ABC企画委員会／軍医学校跡地で発見された人骨問題を究明する会／「アジア・太平洋地域の戦争犠牲者に思いを馳せ心に刻む集会」実行委員会／「悪魔の飽食」をうたう東京合唱団／日本キリスト教海外医療協力会

2. 賛同書の提出者 16人（医師4人、学生2人、その他10人）

3. 賛同募金 5人より7,000円

4. 書籍販売 合計14,700円

（パネル集 @1500円×7冊＝10,500円）
（ブックレット@600円×7冊＝4,200円）

5. 参加者から寄せられた感想（アンケート）

1) 「進める会」の設立と今後の活動について、ご意見、ご要望などお聞かせください。

- ①戦後64年、やっと医学関係者によるこの会の設立に感激一汐です。医を以て侵略の道具とした過去の歴史的事実の反省と共に、現在の被害者にも注目せざるを得ません。
- ②新型エンフルエンザに震えあがってマスクを買い漁ってしまうような一般市民にとっては、とてもショッキングで恐ろしい話です。まずは、倫理や被害者の苦しみを知らず知らずのうちに真実を知りたいと思います。推測によらない事実が公然の秘密という形ではなく、一般に認知されることが必要と考えます。原爆のように、大空襲のように（今度は、日本は加害者側ですが）。
- ③設立は大変嬉しいことです。
- ④進める会の発展を祈ります。
- ⑤質問でも致しましたが、検証の公表と提言、対外的謝罪（アジア等）、そして国際的協調への第

一步へ。

- ⑥戦争と医学に関する問題は、幅広く、731 部隊に関わるものだけでも多岐にわたると思うが、731 部隊に対する徹底した検証を進めるということを目的に進めていくことは、さらに広範な取り組みへの土台になると思う。
- ⑦正直、731 部隊の事はあまり知らなかった。自分達（18 歳）の年代はもちろん、後世に伝えなくてはならないと思う。「進める会」をぜひ知名度のある大きな会にしてもらいたい。
- ⑧私の勤務している職場と関連があり、興味深かった。
- ⑨準備会が用意した設立趣意書以外にも、様々な意見が出されたことは大変よかったと思います。これらの意見もぜひ生かしてほしいと思います。
- ⑩医学部でどうかわかりませんが、薬学部では戦争と倫理について考える、学ぶ授業は 1 時間しかありませんでした。系統的にしっかり議論し考えられる講義が必要ではないかと思います。東大では医療ゼミを自主的にやっていますが、そのような活動を広げるような取り組みが必要ではないかと思います。
- ⑪検証を進めるという場合、一番大事なことは、米国から返還された膨大な資料の請求と精査だと思います。政権交代により、その可能性は大きく開かれました。よい時期に結成されました。頑張ってください。
- ⑫本当は過去の事実を認め、現在、未来について考える会でなければならないと思います。つまり、過去の検証を有効に現在、未来に生かす会にしてほしいと思います。
- ⑬防衛省に保管されている米軍からの返還資料の開示請求を提案します。民主党政権になって、より実現性が出てきたと思います。
- ⑭戦後 60 年以上立つ中で、このような大会（設立）が開かれるというのは遅きにきしたと思いつつも、思ったが吉日で、むしろ機は熟し、この日を機にその活動が早まり、広まる事を願ってやみません。
- ⑮1 年に一度くらいこのような会を開催してはどうかと思う。広島、長崎に於ける原爆投下は、人体実験の側面も持っている。究極的には、「戦争と医の倫理」の検証として討議されるべきものとする。
- ⑯大いに期待している。

2) 記念講演の内容などについて感想をお聞かせください。

- ①資料の発掘と検証、そして現在への対応、短時間の中で語られました。問題の掘り下げは各人に与えられた課題でしょうが、私自身学ばねばと思いました。
- ②長年あのような課題に取り組んでいらっしゃることに驚きと敬意を感じましたが、同時にその動機も知りたく思いました。
- ③大変よい講演でした。
- ④わかりやすい、話もおもしろい、とても参考になりました。
- ⑤明らかにされている事実の数々から、様々な意図が読み取れることがよくわかった。
- ⑥まとめて 731 部隊のお話を聞くことができ、勉強になりました。人体実験は実際にあり、そ

れを元に論文が書かれているというのは、恐ろしいと思いました。

- ⑦色々なデータを取ってきて、粘り強く調べていることに感服しました。
- ⑧大変多くの学びを得ることができました。感謝です。
- ⑨我が国では、医師の反社会的行為についての反省がきちんとされていないことが、良く判りました。
- ⑩常石教授の話は、砕けた感じで、かつ内容は良く理解できた。
- ⑪具体的な資料に基づいての話であり、非常に説得力があった。

3) 人間の尊厳や人権と医療の関わりなど、我が国の医の倫理についての課題やお考えをお聞かせください。

- ①私達ABC委員会は、今なお苦痛に呻吟する被害者の現状から、日本政府に、①謝罪、②現存被害者への医療措置、③被害国の専門医師の養成、支援を求めてきました。一時的な金銭賠償ではなく、苦痛の軽減から自立支援可能な対策と要求をしてきました。新政権成立になった今、共に活動できれば幸せに存じます。
- ②ご自身がその場にいたらどのような行動をとられたかを問うとともに、常に何らかの大義名文のもとに行われる医療、治療の本質的、普遍的な問題点を探ってほしいと思います。治療が遺伝子レベルになり差別や残虐性が見えにくくなってきている今だからこそ、なおさら必要ではないでしょうか。
- ③すぐには書けません。
- ④戦時になると、平時に生命と友愛を説いている医療界、宗教界までが、結果的に戦争遂行に協力してしまった歴史があります。平時にこそ、この逆行した流れを正さなくてはならないと思います。1) 医療界以外の人々、2) 国外の人々（アジア、その他）の理解と協力を得られる活動が望まれます。
- ⑤今後の戦争や平和、倫理について学んでいきたいと思います。
- ⑥とても重要な検証作業と思います。戦争ではなく平和のための医療を切に願います。
- ⑦現在の最先端医療（IPS細胞等）が、戦争に結びつかないようにしなければならないと思います。
- ⑧医の倫理について、倫理を犯す事件、事例が発生している。新しい医学の研究開発とは、しばしば近接している問題でもある。言うべくして中々難しいこともある。警告を怠らないようにしたいものだ。

○設立大会を何によって知りましたか？

- ・案内状を受けたので 7人
- ・知り合いを通じて 9人
- ・インターネットを通じて 1人
- ・その他 1人

(事務局：室井 正)